



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成を
一人一人が輝く子どもの姿を求めて

☆1月の目標

- ☆学習をがんばる
- ☆みんなとなかよく
- ☆笑顔であいさつ
- ☆かぜをひかない

☆配布物のお知らせ

- 1 学校便り
- ☆保護者の会から

☆今後の行事計画

- 1月20日 避難訓練
- 2月10日 入園説明会
- 3月17日 卒園式・卒業式
- 4月14日 入園式・入学式

☆三年一組名前の由来

鈴木 翔大

ぼくの名前は、鈴木翔大です。さいしよ、ぼくの名前は「翔太」と書いて「ひると」とつけられました。けれど、字の画数がわるかったので、「翔大」と書いて、「じょうた」と名前をかえたとお母さんから聞きました。ぼくは、アメリカのテキサスで生まれて、名前をかえるのに役所にいったりしてたいへんだったそうです。「翔」は、羽を大きく広げて飛び立てという意味があり、大きく成長してほしいと思いをこめてつけてくれました。

☆三年一組名前の由来

倉 江里佳

わたしの名前はえりかです。お父さんとお母さんが相談してつけてくれたそうです。えりかの「佳」は、すぐれてよい、うつくしいなどの意味があるそうで、イメージが良かったのでこの漢字にしたそうです。お姉ちゃんも「佳」がついています。後は一番いい画数になる漢字を使っています。バランスが良く、やさしいイメージから江里佳になりました。わたしは、とても気に入っています。

☆一年三組がんばりたいこと

すずきしんたろう

ぼくは、もっともじをスラスラよめるようにがんばりたいです。パパにスラスラよめるようになったら、すきなゲームがかってもらえるからです。そのためには、本をもっといっぱいよみたいです。



☆一年三組がんばりたいこと

ふく田 かん

ぼくは、二〇一八年がんばりたいことは、こくごです。とくに、文しようだいです。文しようだいは、ちよつとむずかしいです。だから、とくいになりました。



☆一年三組がんばりたいこと

ほぼ ゆら

ぼくは、じぶんでできることは、じぶんでやりたいです。おもちゃをかたづけられることをがんばりたいです。おんどくもがんばりたいです。

☆一年三組がんばりたいこと

いとう かりな

わたしがことしががんばりたいことは、本を三がつまでに三十さつよむことです。なぜかという、きよねんすこししか本をよめなかつたからです。本をよんでおねえちゃんみたいに、いろいろなお話を聞きたいです。

☆一年三組がんばりたいこと

ゆそうすき るな

わたしは、二年生になったらテスト見なおしをちゃんとしたいと思っています。なぜかという、名まえをかきわすれることがおおいからです。これからは、ちゃんと見なおしをして百点をとりたいとおもいます。

☆六年一組「柿山伏」を読んで

【あらずじ】山伏は空腹のあまり、他人の柿の木に登って勝手に柿を食べてしまいます。そこへ、柿主がやって来ました。山伏が木の上にかくれていることを知っている柿主は、さる、とび、からすのまねをさせます。山伏は柿の木から飛び下りて、こしの骨をけがしてしまいます。そして看病してもらったために、柿主の家に連れて行ってもらうようお願いしました。でも山伏をおんぶしている柿主は、山伏をふりおとしました。

☆六年一組「柿山伏」を読んで

吉田 ロイス

【もし自分が山伏だったら】、もうばれていて、木から下りてあやまります。【もし自分が柿主だったら】、山伏を家に連れて帰って、看病をして、元気になったらぼくの柿の畑で一週間仕事をさせます。【この狂言が伝えようとしていることは】、いくらりっぱな人でも、ずるいことやごまかしをするので、少しくらいゆるしてあげるのも大事ということですよ。

☆六年一組「柿山伏」を読んで

辻本 凜香

【もし自分が山伏だったら】、よくばらずに一つだけ柿をとって、すぐにその場からはなれてかくれて食べると思っています。【もし自分が柿主だったら】、柿の周りの枝にあみをかけて何からも守るか、その柿を1個や2個は山伏にあげます。【この狂言が伝えようとしていることは】、ゆったりとした広い心を持って、いたわり合いながら仲よく楽しく生きる方が、損をすることが少ない、と伝えようとしているのだと思います。

☆六年一組「柿山伏」を読んで

日置 庵文

【もし自分が山伏だったら】、人の柿を勝手に食べる事はしません。なぜなら、柿主が大切に育てた木だからです。その柿を食べるといふ事は、人の柿を盗んで食べるのは悪いことだからです。でもすぐく腹がへっていたら、柿主にお願ひして柿を分けてもらえばいいと思ひました。【もし自分が柿主だったら】、山伏が柿を食べているのを見たら、すぐには怒らずに、理由を聞いてから柿を分けてあげます。【この狂言が伝えようとしていることは】、勝手に人の物を食べてしまうと、バチが当たるからするな、と伝えていると思ひました。

☆六年一組「柿山伏」を読んで

吉村 泉希

【もし自分が山伏だったら】、私はまず絶対に知らない人の木に登らないと思ひます。でも、もしもすぐくお腹がすいたら、持ち主に柿を一つだけでもいいから、食べさせてくださいと聞いた方がいいと思ひます。勝手に人の柿を採るのは、悪いです。【もし自分が柿主だったら】、私はおこると思ひます。がんばって育てた柿を許可なしで食べられるのはむかつきます。でも、柿をください、と言われたら一つだけあげると思ひます。【この狂言が伝えようとしていることは】、許可なしに勝手に人の物をとったらだめだ、という事だと思ひます。悪い事をしたら、自業自得でバチが当たると思ひます。最初から悪いことをしなければいい、という事を伝えていると思ひます。

☆四年二組「プラタナスの木」を読んで

丹野 祐希

この話を読んで、おじいさんがどこに行ったのかわかりませんでした。おじいさんは、マーちゃんたちがサッカーをして遊ぶ公園に来て、マーちゃんたちが遊ぶところを見えていました。この公園は、大きなプラタナスの木が一本立っているのです。プラタナス公園とよばれていました。いつもマーちゃんたちの遊んでいるところをみていたおじいさんとマーちゃんたちは、しばらくして話をしようになりあした。おじいさんは、マーちゃんたちに地面の下に木の枝や葉と同じくらいの根が広がっていることや、根が枝や葉っぱに水や栄養を送っていることなどを話してくれました。おじいさんは、自然の事をよく知っている物知りだと思ひました。そんなおじいさんは、プラタナスの木が切られてから公園に来なくなってしまうました。きつと、今までプラタナスの木のかが公園のベンチをおおっていてすずしくしていたけれど、木がなくなってしまうと日かげがなくなつたから、来なくなつたのかなと思ひます。プラタナスの木がまたはえてきたら、おじいさんもまたもどって来てくれるような気がします。わたしは、プラタナスの木をを読んで、家の庭にある木を見るたびに、おじいさんがマーちゃんたちに教えてくれた木の話の思い出が蘇ります。寒くなってきた庭の木からは葉っぱは落ちてしまいましたが、地面に広がっている根はまた春に新しい芽を出すためのじゅんびをしているのだと思ひます。プラタナスの木が大きく育ってマーちゃんたちがまたおじいさんと会えるといいなと思ひます。